

社会学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
理論社会学特論Ⅰ	よき生と社会構想の社会学: エーリッヒ・フロムにおける批判 と倫理	2	出口 剛司	通年集中 その他 連講	
理論社会学特論Ⅱ	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	後期 火曜日 4講時	
社会変動学特論Ⅰ	自己と承認の社会学	2	山尾 貴則	後期 月曜日 2講時	
社会変動学特論Ⅱ	死と死にゆくことの社会学	2	田代 志門	前期 水曜日 2講時	
社会学特論Ⅰ	質的フィールドワーク概論	2	徳川 直人	前期 水曜日 3講時	
社会学特論Ⅱ	農村社会と農村社会学	2	佐久間 政広	前期 火曜日 5講時	
社会学特論Ⅲ	日本の思想遺産・主婦論争を 読む	2	妙木 忍	前期 木曜日 2講時	
社会変動学研究演習Ⅱ	相互作用論的アプローチ入門	2	田代 志門	後期 水曜日 4講時	
理論社会学研究演習Ⅰ	リスクの難問	2	小松 丈晃	前期 火曜日 2講時	
理論社会学研究演習Ⅱ	地域社会学の理論と論点	2	永井 彰	前期集中 その他 連講	
理論社会学研究演習Ⅳ	批判的社会理論の今日的可能性	2	永井 彰	前期集中 その他 連講	
社会学研究実習Ⅰ	社会調査実習	2	田代 志門	前期 金曜日 3講時. 4講時	
社会学研究実習Ⅱ	社会調査実習Ⅱ	2	田代 志門	後期 金曜日 3講時. 4講時	

科目名：理論社会学特論 I / Theoretical Sociology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：出口 剛司

コード：LM98808, 科目ナンバリング：LIH-SOC601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：よき生と社会構想の社会学：エーリッヒ・フロムにおける批判と倫理
2. Course Title (授業題目)：Sociology for good life and social vision: Critique and ethics in Erich Fromm
3. 授業の目的と概要：社会学はこれまで「よき生」とそれを実現するための「社会構想」を探求してきたが、それらを明確に自らの理論展開に組み込んでこなかった。本講義では、上記の課題に答えるべく『自由からの逃走』で著名なエーリッヒ・フロムの社会学を取り上げ、その社会批判と倫理想を明らかにする。主著『自由からの逃走』は、近代的自由が「自由を放棄する自由」をその内部に含むことを意味する。今日、グローバル化という大きな社会変動において、人々は国民国家やそれに付随するさまざまな社会制度が解体する危機に直面し、莫大な選択の自由と過酷な自己責任の原則にさらされる一方、新たな危機管理と経済的な効率性追求の下、さらなる統制と管理を導入する必要性に迫られている。こうした「自由と自由の放棄」というパラドシカルな現実を認識し生き抜くための社会学と「生の技法」を、ナチス支配のドイツ、戦後アメリカの自由主義社会に生きたフロムの生涯と著作を概観することを通して、明らかにしていく。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Sociology has pursued good life and social vision for its realisation but has not incorporated them into its theoretical development. In this lecture, we will discuss the sociology of Erich Fromm, who is famous for his book *Escape from Freedom*, and elucidate his social critique and ethical thought to solve this problem. *Escape from Freedom* implies that modern freedom includes the 'freedom to renounce freedom'. Today, amid the great social change of globalisation, as the nation-state and its various social institutions face the danger of erosion, people are subjected to enormous freedom of choice and harsh principles of self-responsibility, while at the same time new controls and regulations are introduced in the pursuit of crisis management and economic efficiency. In this lecture, we will examine the life and writings of Fromm, who lived in Nazi-controlled Germany and post-war liberal society in the U.S. and clarify the paradoxical realities of 'freedom and renouncement of freedom' and sociological theory and 'art of living' to survive them.
5. 学習の到達目標：エーリッヒ・フロム及びフランクフルト学派の批判理論の特徴を理解し、社会学的研究において必要とされる理論的思考を身に着けることをめざす。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand Critical theory of Erich Fromm and the Frankfurt school and learn a way of theoretical thinking which is needed for sociological study.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 社会学理論史の方法
 2. 擬似メシアとユダヤ神秘主義
 3. 権威と家族
 4. 自然支配と社会統制
 5. ユートピアとしての母権制
 6. 近代と主体の文明史
 7. 亡命と自由からの逃走
 8. フロムとニーチェ
 9. 疎外とナルシシズム
 10. 希望なき時代の希望
 11. フロムとアドルノ＝ホルクハイマー（自然的理性と啓蒙的理性）
 12. フロムとハーバマス（人間的自然と社会批判）
 13. フロムとホネット（自己実現と承認）
 14. フロムとローザ（批判理論とよき生の社会学）
8. 成績評価方法：

レポート
9. 教科書および参考書：

出口剛司著『エーリッヒ・フロム』（新曜社）
10. 授業時間外学習：事前に『自由からの逃走』もしくは『愛するということ』を通読しておくことが望ましい。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：理論社会学特論Ⅱ／ Theoretical Sociology (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM22405, 科目ナンバリング：LIH-SOC602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：sociology of risk and non-knowing

3. 授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有り様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知(想定外)の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a lecture-centered course.

We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk theories and gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks that face us. First, the sociological risk theories are reviewed. Then the public's confidence in science and the responsibility of the experts will be discussed. Finally, we consider the distorted relationship between risk, trust(or confidence) and ignorance and the critical problems resulting from this relationship.

5. 学習の到達目標：・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会学再考—U. ベックの社会学理論の検討—
3. 社会学システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスク社会と信頼 (1)
8. リスク社会と信頼 (2)
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 40%+レポート提出 60%で評価

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にすべき文献を適宜指示する

10. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定

授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもら予定です

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：社会変動学特論 I / Theory of Social Change(Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：山尾 貴則

コード：LM21206, 科目ナンバリング：LIH-SOC603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：自己と承認の社会学
2. Course Title (授業題目)：Sociology of Identity and Recognition
3. 授業の目的と概要：本講義では、社会学的な自己論を検討する。その上で自己の形成にとって承認という契機がもつ重要性について論じる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of the sociology of self-identity. And then We will discuss the importance of recognition in self-identity.
5. 学習の到達目標：本講義を通して、社会学的な自己論を理解することができるようになること、承認という契機がもつ重要性を理解することができるようになることが学習の到達目標である。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand of the sociology of self-identity and explain the importance of the recognition in shaping of self-identity.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに
 2. 生理的早産-人間にとっての社会の必要性
 3. 社会から隔絶されることの意味 (1) -「カスパー・ハウザー」を手がかりに
 4. 社会から隔絶されることの意味 (2) -「カスパー・ハウザー」を手がかりに
 5. 自己の形成と発達 (1) -G.H. ミードのコミュニケーション論
 6. 自己の形成と発達 (2) -G.H. ミードの自我論
 7. 自己と役割 (1) -E. ゴフマンの役割論
 8. 自己と役割 (2) -多様な役割遂行と役割遂行の困難
 9. 自己と役割 (3) -役割と自己との葛藤
 10. 現代社会における自己 (1) -A. ギデンズの社会理論
 11. 現代社会における自己 (2) -A. ギデンズの再帰的自己論
 12. 自己と承認 (1) -A. ホネットの承認論
 13. 自己と承認 (2) -承認をめぐる闘争
 14. 自己と承認 (3) -失われた自己信頼の回復
 15. まとめとふりかえり
8. 成績評価方法：

毎回のコメントシート (30%)、試験 (70%) で評価する。
9. 教科書および参考書：

講義時に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会変動学特論Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM13207, 科目ナンバリング：LIH-SOC604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、かつてないほどの個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、終末期医療に関する様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。なお、受講生には、授業で学んだことを活かして死に関わる興味深い現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from sociological perspective.

5. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students think about issues regarding death and dying from sociological point of view.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1) 「死にゆく過程」の発見
3. 現代社会における死 (2) なぜ死生観が時代の問いになるのか
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1) 安楽死・尊厳死とは
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2) 誰のための尊厳死？
6. 死の社会学の系譜 (1) デス・スタディのなかの社会学
7. 死の社会学の系譜 (2) 死の何が「抑圧」されているのか
8. 中間まとめ
9. 終末期ケアの社会学 (1) ホスピス・緩和ケアの可能性と課題
10. 終末期ケアの社会学 (2) 耐え難い苦痛と鎮静 (セデーション)
11. 終末期ケアの社会学 (3) 未決の問いとしてのがん告知
12. 終末期ケアの社会学 (4) アドバンス・ケア・プランニングとは
13. 死生観の社会学 (1) 死者との邂逅
14. 死生観の社会学 (2) 受け継がれていく生
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016年）

トニー・ウォルター『いま死の意味とは』（岩波書店、2020年）

10. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学特論 I / Sociology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：徳川 直人

コード：LM13306, 科目ナンバリング：LIH-SOC605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的フィールドワーク概論
2. Course Title (授業題目) : Methods of Qualitative Fieldwork in Sociology
3. 授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について、より深く学ぶ。参加者はオリジナル教材を読み、資料収集、日常観察、フィールドノーツなどの実践を試みることで、理解を深める。その基礎のうえにたつて、モダンバージョンの理論・方法とポストモダンバージョンの理論・方法とのちがいについて学び、新しい基準、倫理なども理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will learn methods and theories in sociological qualitative inquiry in deeper meaning, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection, observation of everyday life, and writing fieldnotes. On this ground, students will learn the difference between the modern version and the post-modern version of qualitative inquiry, and understand new criteria, ethics, and responsibilities as a researcher.
5. 学習の到達目標：1) 質的研究法の技法、考え方、意義と限界が、より深く理解できるようになる。
2) フィールドワークやインタビューを実践できる必須素養が身につく。
3) 調査のモラルと倫理、責任について、より深く考慮できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through this course students will become able to 1) understand methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits in detail, 2) acquire enough knowledge to conduct some fieldwork or interview, and 3) make deeper consideration on morals, ethics and responsibilities as a researcher.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。
 1. 質的分析法入門
 2. 感受概念
 3. 方法としてのフィールドノート
 4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
 5. 聞き書き
 6. インタビュー
 7. 自然主義的観察
 8. 参与観察
 9. グラウンデッドな接近法
 10. エスノメソドロジー
 11. エスノグラフィー
 12. 事例分析とモノグラフ
 13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
 14. アクション・リサーチ
 15. 調査倫理
8. 成績評価方法：
平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。
9. 教科書および参考書：
デンジン&リンカン『質的研究ハンドブック』、エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。また、教材の読み物としてオリジナル資料を作成する。
Books and papers will be introduced in class, such as Handbook of Qualitative Research by Denzin and Loncoln, Writing Ethnographic Fieldnotes by Emerson et.al. (1995), Dictionary of Qualitative Inquiry by Schwandt (2007), Japanese Rural Sociology and the Modern World by Hosoya (1998), etc., with original texts written by the lecturer.
10. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。
Students are required reparatory readings and some home works.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：社会学特論Ⅱ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：佐久間 政広

コード：LM12506, 科目ナンバリング：LIH-SOC606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：農村社会と農村社会学
2. Course Title (授業題目)：Rural communities and rural sociology in Japan
3. 授業の目的と概要：本講義では、農村社会を理解するための基礎的な視角、および農村社会の歴史的变化に関する知見を社会学の見地から提供するとともに、農村社会学の誕生と展開について講ずる。あわせて今日の農山村社会の直面する諸問題、とりわけ過疎高齢化の深刻な山村の諸問題に関して理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provide an overview of the hisitory of the development of rural sociology to help students understand the historical changes of rural communities in Japan.
5. 学習の到達目標：①日本農村を理解するために必要な概念である家と村の基本的な特質について説明できる。
②日本における農村社会学の成立と発展の概略について説明できる。
③日本における農村社会の歴史的变化について大まかに説明することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students explain the hisitory of the development of rural sociology and the historical changes of regional communities in Japan.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下の通りである。
 - 1 オリエンテーション
 - 2 農山村社会を理解する
 - 3 村落社会における助け合い
 - 4 村落社会における二つの共同
 - 5 「交換」の視点から農村と都市をみる
 - 6 家とは何か
 - 7 村の誕生
 - 8 高度成長期以前の農村社会
 - 9 農業の近代化と農村社会
 - 10 今日の農山村社会
 - 11 鈴木栄太郎の自然村の理論
 - 12 有賀喜左衛門の家連合の理論
 - 13 竹内利美の講・組・年序階梯組織の理論
 - 14 細谷昂の農村研究
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：
授業への取り組み 50%、レポート 50%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。参考書として、細谷昂『現代と日本農村社会学』1998年、細谷昂『家と村の社会学—東北水稻作地方の事例研究—』2012年 [No textbooks will be used. Students should take notes on their own.]
10. 授業時間外学習：新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。[Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学特論Ⅲ／ Sociology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：妙木 忍

コード：LM14210, 科目ナンバリング：LIH-SOC607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む
2. Course Title (授業題目)：Japan's heritage of thought: Reading the Housewife Controversy
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本の社会史の変遷を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライフコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞(2019 年)を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to give an overview of socio-economic change in Japan and interpret the Housewife Controversy, part of Japan's heritage of thought. It also aims to analyze social mechanisms such as why the controversy revolved around women despite also concerning men and wider society, and why controversy regarding women's choice of life course continues even as the era and talking points change. Furthermore, through a reading of Chizuko Ueno's 2019 Matriculation Ceremony Congratulatory Address at the University of Tokyo, this course will help students grasp social problems in Japan from the perspective of gender, and explore how we can take independent action to change society.
5. 学習の到達目標：日本における社会史の変遷やジェンダー規範の変容について理解する。
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand socio-economic change and the transformation of gender norms in post-war Japan.
It aims to consider social problems from the perspective of gender.
It also aims to help students think about issues of concern to them, to pose their own questions about those issues, and to solve them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。

第1回 イン트로ダクション
第2回 家族の戦後体制と統計データ
第3回 主婦論争とは何か
第4回 第1次主婦論争(1950年代)
第5回 第2次主婦論争(1960年代)
第6回 第3次主婦論争(1970年代)
第7回 第4次主婦論争(1980年代)
第8回 第5次主婦論争(1990年代)
第9回 第6次主婦論争(2000年代)
第10回 主婦論争の通時的分析
第11回 日本におけるジェンダー規範の変容
第12回 東大祝辞(2019年)を読む
第13回 発表と討論①
第14回 発表と討論②
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
授業への関与度(15%)、出席(15%)、発表(20%)、レポート(50%)
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。
No textbook will be used. Handouts will be provided at every class. Reference materials will be introduced as necessary.
10. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。
Students are required to prepare and review for each class. Assignments may be given, and preparation for a presentation and an essay will also be required.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

Students will be requested to complete a response card at the end of each class.

科目名：社会変動学研究演習Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM23409, 科目ナンバリング：LIH-SOC610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：相互作用論的アプローチ入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Interactionist Sociology
3. 授業の目的と概要：相互作用論的アプローチに関する社会学の古典的著作の精読を通じて基本的な考え方を学ぶ。具体的にはハワード・S・ベッカーの初期の代表作である『アウトサイダーズ』を取り上げ、領域横断的に人間のあらゆる活動を「集合行動」として分析する視点を身につける。また併せて彼の「私たちは誰の側に立っているのか？」（"Whose Side Are We On?"）論文及びその関連文献を読み、社会調査における党派性とバイアスについて考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of the interactionist sociology, focusing on Howard S. Becker's works.
5. 学習の到達目標：(1) 社会学における相互作用論的アプローチを理解する
(2) 社会調査における党派性とバイアスについて自身の見解を述べることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students understand Interactionist approach in Sociology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 演習の進め方について
 2. 第二次シカゴ学派とベッカー社会学 (1)
 3. 第二次シカゴ学派とベッカー社会学 (2)
 4. 『アウトサイダーズ』を読む (1)
 5. 『アウトサイダーズ』を読む (2)
 6. 『アウトサイダーズ』を読む (3)
 7. 『アウトサイダーズ』を読む (4)
 8. 『アウトサイダーズ』を読む (5)
 9. 中間まとめ
 10. 「私たちは誰の側に立っているのか？」論争 (1)
 11. 「私たちは誰の側に立っているのか？」論争 (2)
 12. 「私たちは誰の側に立っているのか？」論争 (3)
 13. 「私たちは誰の側に立っているのか？」論争 (4)
 14. 「私たちは誰の側に立っているのか？」論争 (5)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：

ハワード・S・ベッカー『完訳 アウトサイダーズ』（現代人文社、2011 年）
10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：理論社会学研究演習 I / Theoretical Sociology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM12209, 科目ナンバリング：LIH-SOC611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクの難問

2. Course Title (授業題目) : risk conundrums

3. 授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つと目されるようになってきている。しかし、複雑性の増大した現代社会においては、解決への道を見つげがたいさまざまな「リスクの難問(risk conundrums)」が頻出している。この演習では、社会学的なリスク研究の第一人者が編集したテキストに基づいて、自然災害、環境破壊、エネルギー問題など多様な事例にそくして、そうした難問を解決するための道筋を、受講者とともに探っていきたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Uncertainty” and “Risk” are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In the complex society we live in today various “risk conundrums” that make it difficult to find a solution are frequently occurring. In this seminar, based on a text edited by a leading sociological risk researcher, we will consider the path to solve such unsolvable problems in various cases such as natural disasters, environmental destruction, and energy problems.

5. 学習の到達目標：・社会学の専門文献の読解方法を習得する

・リスクや不確実性を社会学的に論じるさいの基本的視角を学ぶ

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will develop the reading skills to understand the sociological texts
(2) Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 信頼が失われたとき
3. 信頼が失われたとき
4. 信頼が失われたとき
5. カタストロフィックなリスクに直面したとき
6. カタストロフィックなリスクに直面したとき
7. 予想外の事態に向き合うとき
8. 予想外の事態に向き合うとき
9. 予想外の事態に向き合うとき
10. 専門家の中で論争になっているとき
11. 専門家の中で論争になっているとき
12. 専門家の中で論争になっているとき
13. エネルギー問題にかかわるリスクに直面したとき
14. エネルギー問題にかかわるリスクに直面したとき
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業での発言・平常点 70%+レポート 30%による

9. 教科書および参考書：

Kasperson, R. E., 2017, Risk Conundrums: Solving Insolvable Problems, Earthscan.

その他、必要な参考文献については、授業のなかで指示する。

10. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：理論社会学研究演習Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：1 学期集中 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM98820, 科目ナンバリング：LIH-SOC612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域社会学の理論と論点
2. Course Title (授業題目)：Theories and issues of regional sociology
3. 授業の目的と概要：地域社会を研究するための基礎理論を学ぶとともに、地域社会研究において重要な論点（地域ケア、地域医療、地域自治、地域福祉、住民自治組織など）について、資料の検討と議論をつうじて理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn the basic theory for studying the local community, and will understand important issues in community research (community care, community medicine, local governance, community welfare, inhabitant organizations, etc.) through examination and discussion of materials.
5. 学習の到達目標：日本の地域社会を研究するための基礎理論について理解できるようになる。
日本の地域社会を研究するための重要な論点について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to understand the basic theories for studying the Japanese community.
Students will be able to understand important issues for studying the Japanese community.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 農村地域社会の理論 (1)
 3. 農村地域社会の理論 (2)
 4. 農村地域社会の理論 (3)
 5. 地域ケア・システムと地域社会 (1)
 6. 地域ケア・システムと地域社会 (2)
 7. 地域医療の展開と地域社会の変貌 (1)
 8. 地域医療の展開と地域社会の変貌 (2)
 9. 地域医療・地域福祉とローカルガバナンス (1)
 10. 地域医療・地域福祉とローカルガバナンス (2)
 11. 公私協働とは何か (1)
 12. 公私協働とは何か (2)
 13. ソーシャルインクルージョン
 14. 総括討論 (1)
 15. 総括討論 (2)
8. 成績評価方法：
課題提出による（事前課題の提出を含む）。
9. 教科書および参考書：
細谷昂『現代と日本農村社会学』東北大学出版会、1998 年。
その他参考文献は、クラスルームにおいて指示する。
10. 授業時間外学習：授業参加にあたっては、クラスルームにおいて事前に提示された課題を提出しなければならない。クラスルームに提示された参考文献についても、事前に読むことが必要である。授業後は、授業内容についての確認レポートを提出する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：理論社会学研究演習Ⅳ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期集中 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM98821, 科目ナンバリング：LIH-SOC614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：批判的社会理論の今日的可能性
2. Course Title (授業題目)：Actuality of the Critical Social Theory
3. 授業の目的と概要：ハーバーマスやホネットらのテキストにそくして、「批判的社会理論」と総称される一連の知的営為がいかなる社会認識や社会分析の論理を内包し、それが現代社会の批判的分析にいかなる寄与をなしているのかを検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will examine what kind of logic of social cognition and social analysis is contained in the theory collectively called "critical social theory", based on the texts of Habermas and Honneth. This course also examine what contribution this theory can make to the critical analysis of modern society.
5. 学習の到達目標：ハーバーマスの理論の基本的な考え方について理解できるようになる。
ホネットの理論の基本的な考え方について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to understand the basic ideas of Habermas's theory.
Students will be able to understand the basic ideas of Honneth's theory.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ハーバーマス理論の今日的可能性 (1)
 3. ハーバーマス理論の今日的可能性 (2)
 4. ハーバーマスの实在論 (1)
 5. ハーバーマスの实在論 (2)
 6. EU の正統性問題 (1)
 7. EU の正統性問題 (2)
 8. ホネット理論の今日的可能性 (1)
 9. ホネット理論の今日的可能性 (2)
 10. ホネットの新自由主義批判 (1)
 11. ホネットの新自由主義批判 (2)
 12. 社会理論としてのハーバーマス理論 (1)
 13. 社会理論としてのハーバーマス理論 (2)
 14. 総括討論 (1)
 15. 総括討論 (2)
8. 成績評価方法：
授業開始前の課題提出 (40%)、授業期間中の課題提出 (20%)、および授業後のレポート提出 (40%) により評価する。
9. 教科書および参考書：
永井彰・日暮雅夫・舟場保之編著『批判的社会理論の今日的可能性』
10. 授業時間外学習：授業開始前に、教科書の指定箇所を読み、質問事項をレポートとして提出する。授業期間中は、授業で得た知見を書面にて提出する。授業後に、教科書を再読し、レポートを作成する。詳細はクラスルームに記載する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学研究実習 I / Sociology (Research) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時、前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：田代 志門

コード：LM15305, **科目ナンバリング：**LIH-SOC615J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods

3. 授業の目的と概要：社会調査の概要（意義、種類、方法、歴史、課題、技法等）を網羅的に学ぶとともに、後期に予定されている調査実施に向けた準備作業を行う。特にインタビュー調査の技法については模擬インタビューの実施を含め集中的に学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to plan and conduct social research by themselves.

5. 学習の到達目標：(1) 社会調査の方法と論点を理解する。

(2) 社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。

(3) インタビュー調査の技法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic skills for planning and conducting social research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 社会調査とは
- 2 研究計画とは
- 3 社会調査の方法 (1)
- 4 社会調査の方法 (2)
- 5 社会調査の方法 (3)
- 6 社会調査の方法 (4)
- 7 社会調査の方法 (5)
- 8 調査倫理
- 9 問題の設定 (1)
- 10 問題の設定 (2)
- 11 既存の調査の検討 (1)
- 12 既存の調査の検討 (2)
- 13 仮説の構成 (1)
- 14 仮説の構成 (2)
- 15 調査対象の選定

8. 成績評価方法：

成績評価の方法：授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』（有斐閣、2016 年）

佐藤郁哉『社会調査の考え方』（上）（下）（東京大学出版会、2015 年）

10. 授業時間外学習：グループ単位でそれぞれが調査の全過程の作業を行うため、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学研究実習Ⅱ／ Sociology (Research) II

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時, 後期 金曜日 4 講時

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM25303, 科目ナンバリング：LIH-SOC616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods II

3. 授業の目的と概要：質的データ分析法について理解を深めるとともに、前期で行った予備作業を踏まえて調査を実施し、調査結果の分析を行い、調査報告書を作成する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to plan and conduct social research by themselves.

5. 学習の到達目標：(1) 質的データの分析法を身につける。

(2) 設定したテーマについて社会調査を実施し、その分析を行えるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop basic skills for planning and conducting social research.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1 調査の企画
- 2 調査項目の設定 (1)
- 3 調査項目の設定 (2)
- 4 インタビューの実施 (1)
- 5 インタビューの実施 (2)
- 6 質的データ分析法 (1)
- 7 質的データ分析法 (2)
- 8 質的データ分析法 (3)
- 9 調査結果の整理・分析 (1)
- 10 調査結果の整理・分析 (2)
- 11 調査結果の整理・分析 (3)
- 12 調査報告書の作成 (1)
- 13 調査報告書の作成 (2)
- 14 調査報告書の作成 (3)
- 15 調査報告 (口頭発表)

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

グラハム・R・ギブズ『質的データの分析』(新曜社、2017 年)

10. 授業時間外学習：グループ単位でそれぞれが調査の全過程の作業を行うため、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。